

お子様が走り回って遊ぶ 広さと活用の幅にあふれる家



取材・文◎菊地杏子
撮影◎大西尚明

施主：笠原様(神奈川県)
ビルダー：株式会社江原工務店
延べ床面積：131.66㎡

建築価格帯
1500万円～2000万円

梁や床、建具にウッド調を、壁はホワイトを配したLDKは、差し込む光との調和が取れて明るい。「長男が配膳のお手伝いをしてくれるようになりました」と奥様。お子様たちものびのびと過ごすことができる快適空間に仕上がった。

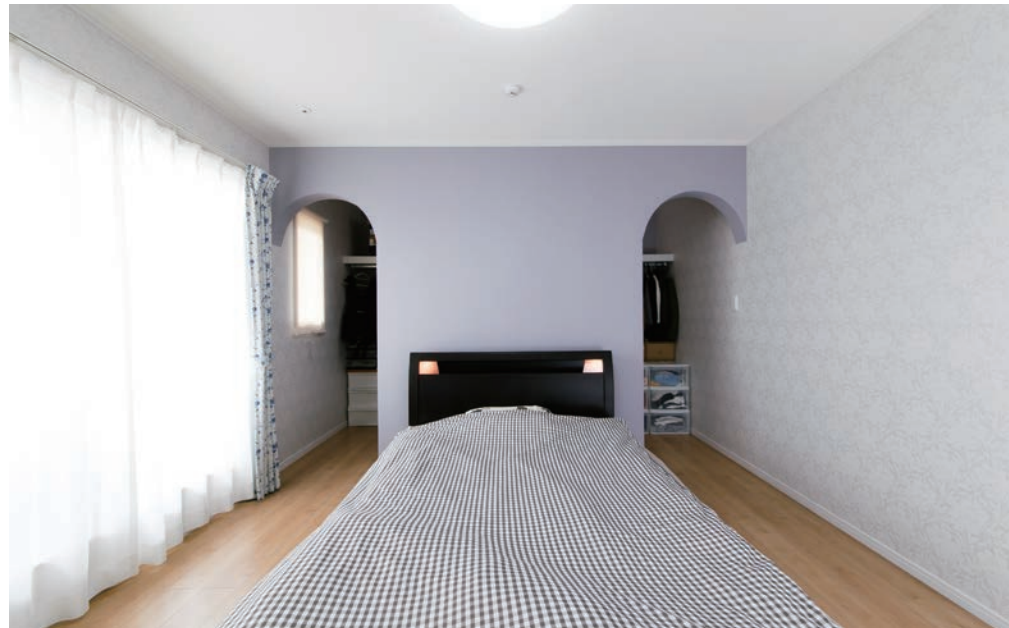
LDKを中心とした空間づくり シンプルな動線で過ごしやすく

20畳の広々としたリビングダイニングに、3人のお子様の元気な声が響き渡る笠原様のお宅。ご夫妻が家づくりを考え始めたのは、ご長男が生まれた頃にさかのぼります。偶然見つけた江原工務店の勉強会に参加したことがきっかけで、家づくりを現実的に考えるようになりました。「良いも悪いも全部さらけ出して提案してくれるところが信頼できて、安心感もありました」とご主人。たくさんのハウスメーカーや工務店の中で、江原工務店を選んだ決め手は、地域密着で縁を大切にするアットホームな雰囲気に加え、個人の生活や資金に寄り添った提案だったとご夫妻は話します。

当初、ご主人のご実家に二世帯住宅をと



外壁はホワイト系のレンガ調で統一、玄関扉やサッシに濃いめのブラウンをチョイスし、全体を引き締めた。外構は、将来的にウッドデッキや花壇などを設置予定。



「1階は極力シンプルに」というご希望通り、広々空間の色調も全体に統一感を持たせた。キッチンからリビングダイニングの全体を見渡せるほか、正面に造り付けたカウンターでお子様たちがお絵かきやお勉強も。



清潔感溢れる玄関の右横には、大容量のシューズクローゼットとコート掛けを完備。こちらは家族用として使用。

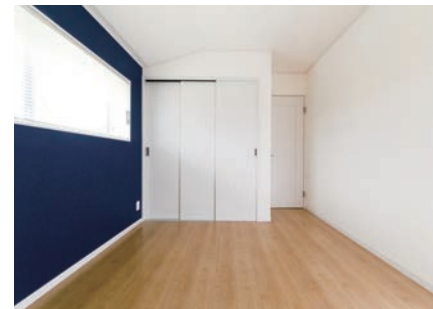


棚を設けた大容量の納戸は、季節ものの家電などの収納に大活躍。一面のみ奥様チョイスの可愛い花柄のクロスにして、全体に明るい印象に。

家づくりリスト | トリ | リ | 4

主寝室からウォークインクローゼットへの入り口は、扉を付けず、シンメトリーのアーチ型にした。ラベンダーカラーの壁紙と相まって、ラグジュアリーな印象に。二つの入り口を設けたことで機能的な動線が確保できた。

主寝室内に設けたウォークインクローゼットは広く、右手に奥様、左手にご主人の衣服を収納するのに十分。壁紙は主寝室正面と同じラベンダーカラーに。



3人のお子様の子供部屋は、男の子は白×紺、女の子は白×ピンクとテーマカラーを設定して壁紙をチョイス。各部屋に収納力のあるクローゼットを設置した。

+1 アドバイス

掃除に大活躍！
2階のミニ洗面台

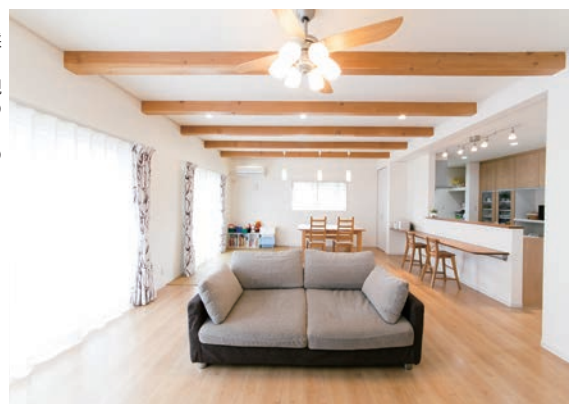
洗面所の混雑を避けるため、2階のトイレ横にも小さな洗面台を設置しました。これが意外にも使い勝手が良く、重宝しています。手を洗ったり、2階を掃除する際になどに、わざわざ1階に降りなくてもいいので便利です。(奥様)



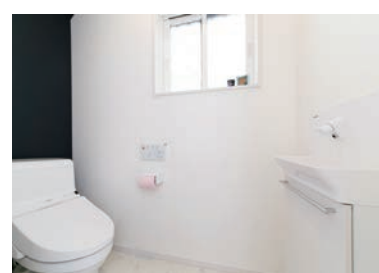
キッチン→洗面脱衣室→浴室が一直線に繋がっていることに加え、廊下側へ抜けて回遊も可能なので、家事動線が抜群。浴室は飽きのこない落ち着いた色合いをチョイスした。



南に面した二つの掃き出し窓からは十分な採光があり、日中はまったくの照明いらず。現在は広いダイニングの一角にジョイントマットを敷いて、お子様の遊びスペースに。



キッチンも白とウッド調で統一し、二方向に窓を付けて明るい。奥にはパントリーを設置。勝手口の手前なので通気性も良く、ダイニング側からは見えません。



1階のトイレはお客様が使うことも考え、シックな落ち着いた雰囲気。中に洗面台をつけたことで、来客時でもここだけの案内で済む。



江原工務店の蓬田さん(後列左)と柴山さん(後列右)と。「子育て世代の先輩のお二人にアドバイスをもらえて、参考になったし、ありがたかった」とご夫妻。

●工務店情報
株式会社江原工務店
神奈川県小田原市栢山2723-1
☎ 0465-38-1177
FAX: 0465-38-1178
http://ebarakoumuten.co.jp
メール: info@ebarakoumuten.co.jp

●家づくりの特徴
工法/木造在来軸組工法
見学会/毎月1回見学会、年間3~4回勉強会
金額/35.55坪ココミ住宅1474万円(税込)
工期/4~6ヵ月
保険・保証/地盤保証、
住宅瑕疵担保責任保険 (JIO)
アフター点検/6ヵ月、1年、2年、5年、10年

考えていましたが、スペースの都合で折り合いがつかず断念。新たな土地探しを始めるも上手くいかず、計画は中断してしまいましたが、3人目のお子様を妊娠したのをきっかけに、家づくりが本格再始動しました。家の主役に、と考えたのは家族が集まるリビングダイニングです。お子様たちが走り回って遊べる十分な広さがあり、そこを通過して2階に行ける間取りがご夫妻のご希望でした。「初めはリビングダイニングの一角に和室を設ける予定だった」と言いますが、全体を広く使える方が後々に活用の幅も広がると考えてあえて分けて、20畳の広々とした空間が完成しました。天井には梁を出し、少し高くしたことで開放感が生まれ、家族が心地良く過ごせる場所になりました。ご主人がこだわったのは、玄関スペースです。「玄関は家の顔」と考えていたので、中も外も空間を広めに取り、ゆとりを持たせました。玄関脇のシューズクローゼットは奥様のご希望。担当の柴山さんの提案で扉はあえて付けず、入り口をアーチ型に切り取りました。曲線が白一色の玄関のさっぱりとした印象を柔らげるのに一役買っています。「扉がないので中の整理には気がつかないですが、使い勝手は抜群。子供たちも靴をしまう習慣が身に付きました」と奥様。アーチ型の入り口は寝室のウォークインクローゼットも同様です。当初の計画から二度の出産を挟み、「何度も仕切り直しがあつた」と話すご夫妻。完成までの道程は長かったと振り返りますが、だからこそ大満足の笑顔がそこにはあふれていました。

